

財政規律を守りつつ、さらに前進

この他にも、待機児童ゼロを守り抜くための保育園増設や、障がい者福祉施設、学校などの充実に努めます。

合併建設計画が2014年度で終了しますので、建設ラッシュの形となりますが、大合併時に作成した財政計画をしっかり守り、財政規律を保っていきます。このため、「行政改革プラン2013」を作成し、人員適正化などに引き続き努めていきます。

さらに、今後の望ましい大都市制度を新潟からつくり上げるため、区長公募のモデル実施を図り、教育を地域により身近なものとし、地域に責任を果たせる態勢を強化するため教育委員を増員して区担当制にする方向を目指します。



▲まちづくりと健康づくりを一体化して進める「健幸都市」（スマートウェルネスシティ）が国の総合特区に認定された。見附、三条など県内の都市とも連携して「健幸都市」サミットも開催された＝りゅーとびあ

にぎやかに「あきら会」交流会

しのだ昭後援会の第11回総会・交流会が3月15日、新潟市の東映ホテルで開かれ、100人を越すサポーターが参加しました。総会では年次報告を了承、次年度の活動方針も承認されました。

その後、篠田昭市長が登壇、「2013年度の新潟市の取り組み」と題した市長トークが行われました。篠田市長は2013年度予算を基に、新潟市の「安心安全」の土台をかさ上げすることに加え、「日本海拠点都市」と「田園文化都市」の2つの都市像を明確にしていく道筋について、パワーポイントを活用しながら説明しました。

「2013年度と14年度の2年間は、これまで仕込んできたさまざまな取り組みを成果として市民にお届けする」との篠田市長の決意表明もあり、会は盛り上がりました。

市長トークの後は、いつものように地元のおいしい食材と

地酒を活用した交流会で話の輪が広がり、懇親を深めました。

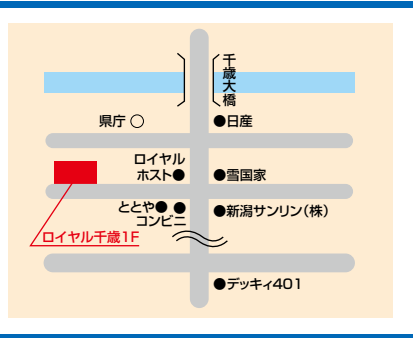


- ◆いいがた市政ゼミナールのご案内
5月30日(木) 会場:チサンホテル&コンファレンスセンター
※詳細は同封チラシをご覧くださいのうえ、趣旨ご賛同のうえ、ご参加をお待ちしています。
- ◆しのだ昭を囲むゴルフ大会のご案内
6月29日(土) 場所:新津カントリークラブ
※詳細は同封チラシをご覧くださいのうえ、友人・知人お誘い合わせてご参加をお待ちしています。



しのだ昭 後援会 あきら会 shinoda

〒950-0962
新潟市中央区出来島1丁目3番11号 ロイヤル千歳21・1F
TEL025-280-8808 FAX025-280-8810
http://www.shinoda-a.jp/ E-mail: info@shinoda-a.jp



お気軽に事務所へお立ち寄り下さい。広く会員を募集しています。



青空 No.29

しのだ昭 後援会 あきら会
2013年4月発行

▲水と土の芸術祭に3.11東日本大震災の被災地域から子供達を招きふるさとの宝の大切さを説く篠田市長

環境・文化で全国的評価

「田園環境・文化都市」を目指して皆さんとまちづくりを進めている新潟市にとって、今年3月、ありがたい2つの評価をいただきました。内閣府から「環境モデル都市」に選定され、文化庁からは「文化芸術創造都市部門」で長官表彰を受けたのです。

「環境モデル都市」は、低炭素化と持続的発展を両立させるなど、先駆的な取り組みにチャレンジする都市・地域を政府が認定するものです。2008年度に政令市では横浜市など4市が選定されました。

今回の2次募集では政令市では5市が提案し、本市と神戸市が選定されました。公共交通の強化などを柱に「田園環境都市」を目指す本市の提案は、「独自性が高い」との評価を得ました。

一方の「文化芸術創造都市」部門は3都市が表彰されました。歴史・文化・地形を大切にまちづくりを進め、文化が地域を明るく元気にする創造的な都市を目指してきた本市の施策が高い評価を得ました。

創造都市の取り組みは、大合併をした本市のアイデンティティー探しから始まりました。たどり着いたのが「水と土」でした。本州日本海側で一番の港町も全国トップの美田地帯も、

日本一の信濃川とそれに次ぐ水量の阿賀野川という2つの母なる大河から育てられた地域です。

「日本一大量の水と多様な土から生まれた新・新潟市」をアピールする「水と土の芸術祭」を2009年に開催。さまざまな評価・批判を文化の摩擦熱にし、大きなムーブメントが起きました。2回目となる昨年の芸術祭は、72万人から参加いただきました。

文化庁からはこのほか、新潟の多彩な踊り文化やマンガ・アニメ、まちで音楽を楽しむライフスタイル、地域文化施設の活用などが評価されました。

「文化政策のない都市」といわれた時期もあった新潟ですが、市民に文化はしっかりと根付いていたのです。これからも「今日を楽しく、明日を豊かにするものが文化だ」との位置づけで、幅広い「水と土の暮らし文化」に光を当てていきます。

独り善がりには陥らないためにも、全国評価・他者評価は重要だと思います。この双方に選ばれた都市は本市以外には横浜と神戸だけです。田園環境・文化都市の旗をいま以上に高く掲げ、皆さんと共に今後も歩んでいきます。

大合併から9年目へ

できる限りの成果を市民に

2013年度を迎えました。新潟市にとって大合併から9年目、政令指定都市を樹立してから7年目の重要な時期となります。合併地域にお約束した合併建設計画は、全国でも稀なほど順調に進行していると言われます。来年度が建設計画終了の年となりますので、しっかりと仕上げていきます。

政令市もおかげさまで良い土台ができてきました。安心・安全の基盤をさらに強化して、目指す「日本海拠点都市」と「田園文化都市」という2つの都市像を早期に明確にするよう努めてきました。篠田市政3期目の残り1年半で、これまで仕込んできた政策を、市民の皆さまに成果として届けるよう、最大限頑張ります。

防災首都を新しい旗に

1昨年発生した3・11大震災では新潟の新たな役割・ミッションが明らかになりました。太平洋側の大災害に対して、新潟は全国最大の救援センターとして機能したのです。昨年暮れに誕生した自公政権は基本政策として「国土強靱化」、「防災・減災ニューディール」を掲げています。今後想定せざるを得ない首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの大災害時に、救援・減災・復旧拠点となる地域は本市をおいて他にありません。

本市はこの事態に機敏に対応し、安心安全の土台のかさ上げと日本海拠点都市の取り組みを重ね合わせる「防災・救援首都」を目指すこととしました。動き出した日本海軸に加え、列島横断軸を早期に構築すると共に、ロシアとの連携を視野に入れたエネルギー・食料拠点化などを国に求めています。それは足元の安全度を高め、平時の拠点化にもつながります。

成長戦略に新潟から呼応

安倍政権の看板政策「アベノミクス」の成否を握るのは3本目の矢である「成長戦略」と思います。この分野でも新潟は仕込みを進めてきました。1つは新たな成長分野である航空機部品産業の育成です。既に西蒲区に航空機エンジン部品を製造する共同工場が着工。さらに第2の生産拠点づくりに取り組んでいます。

新潟の大きな農業の力を引き出す6次産業化の取り組みも本格化させます。6月には南区に「農業活性化研究センター」がオープンします。従来、園芸センターで取り組んできた花の育種などを強化すると共に、中小企業の強化・育成に努めてきた「ビジネス支援センター」のノウハウも入れて農工商連携＝6次産業化を進める拠点とします。

また、本市はこれまで子育てや教育、医療・福祉などの分野をライフインフラと位置づけ、特別養護老人ホームの整備前倒しなどを進め、「安心と雇用が共に伸びるまちづくり」を推進してきました。成長戦略の基礎は雇用の増加です。安倍政権でライフインフラ分野が成長戦略に位置づけられるよう求めていきます。

食育・花育に加え「木育」も

まずは「食と花」の分野です。鳥屋野潟南部に開設した「食育・花育センター」は1年間で約22万人の方からお出でいただき、楽しみながら「食と花」の実践情報を持ち帰っていた



▲食育と農業体験をすべての小学生に味わってもらうプロジェクトの中核施設となる「動物ふれあいセンター」でアルパカにエサをやる篠田昭市長。センターは5月下旬に本格オープンする＝鳥屋野潟南部

いています。今年5月には隣接地に「動物ふれあいセンター」が本格オープンします。アルパカやカピバラをはじめ、家畜や犬・猫と遊べます。先日はかわいいヤギの赤ちゃんも誕生しました。

このゾーンにはもう1つ「こども創造センター」も同時期にお目見えします。子どもたちが冬でも思いっきり遊べる空間です。木のおもちゃを作ったりして、子どもたちの創作能力や創造力を伸ばしたいと思います。角田山や新津丘陵などの里山に親子で関心を持ってもらうなど、「木育」の拠点になればと期待しています。

すべての小学生に農業体験を

南区の農業活性化研究センターと同じエリアに来年6月、宿泊型の農業体験施設「アグリパーク」がオープンします。これに合わせて本市は来年度から、全国で初めて食育と農業体験をすべての小学生に味わってもらうよう準備を進めています。教育委員会と農業分野が協力してカリキュラムづくりに入り、田園型政令市の特徴を活かしていきます。

また、地域と学校を結びつける「地域教育コーディネーター」は大きな役割を果たしてくれていますので、当初目標を前倒して新年度にすべての小中学校・中等教育学校・特別支援学校に配置します。173校で地域と学校の絆づくりを前進させます。



◀新たな成長分野として新潟市が力を入れる航空機エンジン部品産業。昨年は、製作した無人機エンジンの展示会に大きな関心が集まった＝朱鷺メッセ

文化とスポーツで新潟から元気を

市民から親しまれ、交流人口の増加にもつながる施設として、今夏には本市最大の集客施設「マリニピア日本海」がリニューアルオープンします。新たな魅力が「てんこ盛り」ですのでお楽しみに。そして来年4月から6月はJR各社が「新潟に行きましょう」と全国に呼び掛ける新潟デスティネーションキャンペーンが行われますので、これに合わせて新津の「鉄道資料館」をリニューアルします。新津駅と資料館を結びつけるよう工夫をし、多くの鉄道マニアからお出でいただけるよう努めます。

2月に古町地区に「マンガの家」がオープンしたの続き、5月2日、万代地区に「マンガ・アニメ情報館」も開館しました。新潟の素晴らしいサブカルチャーであるマンガ・アニメをいっつも楽しめるようにしていきます。

この他の文化施設では秋葉区文化会館が9月に完成しますし、スポーツ施設では同じ新津地区に秋葉区総合体育館が



▲マンガ・アニメを新潟の貴重なサブカルチャーとして発信する事業も本格化。5月開館の「マンガ・アニメ情報館」（万代地区）に先立ち、2月には「マンガの家」がオープンした＝古町

10月にオープン予定です。

スポーツ分野では、南区に白根野球場が完成、西蒲区に西川総合体育館がまもなく完成します。また、ソチ冬季五輪に合わせて来年2月、鳥屋野潟南部に（仮称）アイスアリーナがオープンします。こちらは本州日本海側で唯一の通年型アイスリンクですので地元以外の方からも開設が待たれています。

医療・福祉もさらに充実

安心安全の土台は保健・医療・福祉です。本市では健康づくりと都市づくりを連動させる「健康都市」（スマート・ウエルネス・シティ）づくりをさらに進めます。

自殺を防ぐ取り組みも重要です。特に心のケアを充実させることは急務ですので今年11月、市民病院に新たに精神科病棟などを備えた施設を増設します。

4面に続く



▲環境モデル都市に選定され坂本哲志・内閣府副大臣から選定証を授与される篠田市長＝総務省